

カノココリの木子及びりん片挿しによる増殖法

カノココリをりん片挿し繁殖する場合、トレイ育苗の床土は、排水性と保水性の良い赤玉土及びバーミキュライトを2：1に混合した培土が適する。りん片挿しの時期は、無加温ハウスにおいて9月～越冬後の3月までが可能である。夏季は寒冷紗一重被覆により地温が低くなり、生育が維持・促進される。

農業研究センター天草農業研究所（担当者：坂梨二郎）

研究のねらい

天草地域に自生している「カノココリ」のりん片挿しによる幼植物期の生育促進技術を確立し、地域特産花きの有用な遺伝資源の早期維持増殖を図る。

研究の成果

- 1 トレイ育苗においてカノココリの球根からりん片挿し繁殖する場合の床土は、灌水時の浸透性、保水及び排水性から、赤玉土とバーミキュライトの2：1混合土が適する。
- 2 りん片挿しの時期は、無加温ハウスの場合、9月～越冬後の3月まで可能であるが、露地挿しの場合、りん片繁殖の最適気温22～23になる9月中旬～10月上旬(海岸島しょ地帯)に行うと年内の生育が促進される。
- 3 木子(赤色花)移植による繁殖は、9月～12月の時期で可能である。
- 4 植え付け方法は、夏季の地温が上がりにくい露地の地床植えが基本となる。また、網目トレイ育苗2年目の個体をトレイごとほ場の土中へ埋め込むと、夏季の地温が低く維持され、植物体の生存率が高まる。トレイ育苗の場合は、寒冷紗一重被覆(遮光率60%)を行うと夏季の地温が低くなり、生育が維持・促進される。

普及上の留意点

- 1 りん片は、適量のバーミキュライトと混合後、ビニール袋等で包み、22～23の恒温暗室において60日程度貯蔵するとりん片の基部に子球が発生する。早期増殖が必要な場合は、この個体を萌芽前(3月～4月)にりん片から剥がれないように丁寧に露地移植すると、生育の促進が可能である。
- 2 その他、カノココリの栽培管理については、花き協会天草支部の栽培管理マニュアル(平成13年3月発行)を参照する。

表1 床土の種類と増殖量

床土の種類	N 成分量	P ₂ O ₅ mg/1L	K ₂ O	供試 りん片 数	子球(個)		根(本)		葉 (枚)	保水・排水性 の評価
					総成形 数	1片当 り形成 数	総発 生数	1片当 り発根 数	1球当 り発 生 数	
-	-	-	-	63	57	1.08	187	3.28	0.33	×
-	-	-	-	72	60	1.09	201	3.35	0.87	
-	-	-	-	71	68	1.17	202	2.97	0.65	
80	1,500	150	66	53	1.04	221	4.17	0.57		
200	4,800	200	75	57	1.04	194	3.40	1.05		
50	1,000	200	57	55	1.17	169	3.07	0.76		

注1) H9年11月4日りん片挿し；H10年12月5日調査

注2) りん片挿しはH9年11月4日、調査；H10年12月5日

注2) 床土の種類 赤玉土(4):腐葉土(4):川砂(2) 赤玉土(2):ハ⁺-ミキユライト(1) 赤玉土(2):ピ⁺-トス(1)
市販育苗培土A 市販育苗培土B 市販育苗培土C

注3) 評価 : 悪い×、普通、良い

注4) 無加温ハウス管理、育苗トレイ(W30×L45×H10cm)に各57~75片挿入、2反復。

表2 木子移植時期・りん片挿し時期と増殖量

増殖 個体 の区分	移植・ りん片挿し 時期	花色	形成した子球の 大きさ		形成した 子球の りん片数 (個)	1トレイ(30) 片当たり 葉発生数
			横長 (cm)	縦長 (cm)		
木子	H10. 9月	赤	1.5	2.0	7.0	1.0
"	" 11月	"	1.5	2.4	7.7	18.0
"	" 12月	"	1.3	1.7	5.6	34.5
りん片	H10. 9月	赤	1.3	1.9	5.3	0.0
"	" 10月	白	1.2	2.1	4.6	0.0
"	" 10月	赤	1.2	1.8	4.2	1.0
"	" 11月	"	1.3	2.0	6.0	5.8
"	" 12月	"	1.3	1.8	4.3	0.0
"	H11. 1月	"	1.3	1.7	5.6	3.1
"	" 2月	"	1.3	1.7	5.1	4.9
"	" 3月	"	1.2	1.6	5.7	2.4

注1) 調査日：平成12年1月24~27日
注2) 調査は1ポット当たり7個体、旬毎に3ポット、各月計9ポット調査。無加温ハウス管理。

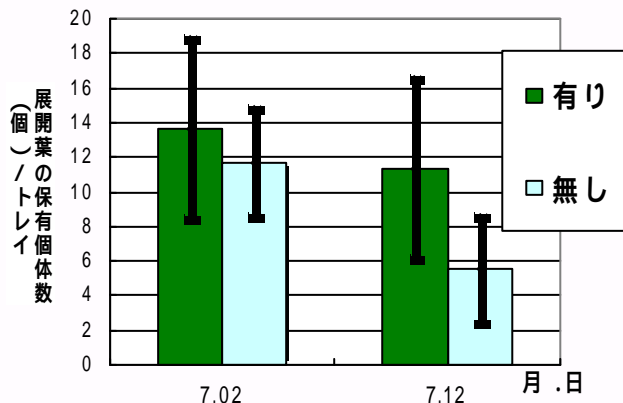


図2 夏季の寒冷紗被覆とカノコユリ展開葉の保有個体数 H12年

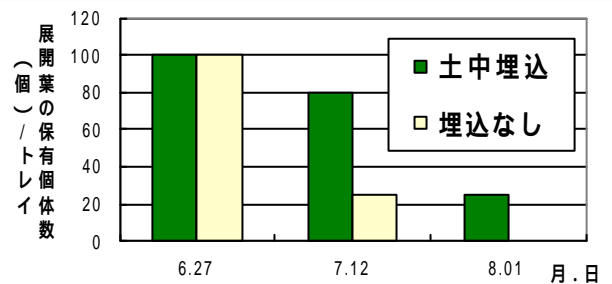


図1 トレイの土中埋込みとカノコユリ展開葉の保有個体数 H12年